

一算哲先ヲ置道策九目勝、一門入先ヲ置智哲七目勝、一亦門入先ニテ智哲ト打門入二目勝、
〔今古殘業三十六〕圍碁の圖に題する詞

やよひのすゑつれくのまゝに、人々碁をうち侍る、わが光○豐岡子の尙資も、十一ばかりのわらはにて、光香朝臣とうち侍るに、はまをひろふとき、かの朝臣のかたに石をかくし持てまけぬるよしひひて、後その石を出して勝になり侍りしを見をりて、たはむれによみけるを、弟なりける政熙なんそのうたをゑがきて、尙資にそのうたか、せよとこひけるになん、かきつけさせ侍る、うちよする手なみにはまをかくされてうちしも今はうづもれにけり

〔看聞日記〕應永廿五年五月十一日、圍碁有回打、予崇○後推野長資朝臣打之、

回碁

永享四年五月十日、圍碁廻打、予、前宰相持經等打、已及晚之間、不付勝負、欲退出、然而今一番勝負、持經負者、今夜祇候、一獻可申沙汰、予負者、可被下重寶之由申、醉中申固打之、而予勝、其興無極、仍可祇候之由申、然而持經、以外沈醉之間、先可退出之由仰罷出、九年八月五日、行豐持經等朝臣重仲候、廻圍碁打、予懸物兩種出紙十帖、碁勝負不付之間、目勝打、持經朝臣勝取之、聊有盃酌、

賭物

〔續日本後紀八〕承和六年十月己酉朔、天皇御紫宸殿、賜群臣酒、召散位從五位下伴宿禰雄堅魚、備後權掾正六位上伴宿禰須賀雄於御床下、令圍碁、並當時上手也雄堅魚下石二路、賭物新錢廿貫、局所賭

四貫、所約總五局、須賀雄、輸、四籌一籌

〔鹽尻三十七〕總五局、須賀雄、輸、四籌一籌、今の俗、一番二番といひ、石幾子かちまけすと云ふ是なり、

〔三代實錄清和〕貞觀十六年八月廿一日丁丑、公卿設宴會於侍從局、招引三品行兵部卿兼上總太

守本康親王、彈正尹四品惟彥親王、終日酣賞、詔後院賜新錢十貫、令充手談賭物、

〔三代實錄陽成〕元慶四年六月七日己丑、從四位上行大貳安倍朝臣貞行、詣闕辭見、賜御衣一襲、拜

舞而出、是日親王公卿參侍仗下、遮留貞行、聊命別酌、以內藏錢一萬充圍碁賭物、酣暢方罷、